

## 平成 30 年度 第 1 回 庄原市総合教育会議次第

と き 平成31年 1 月21日（月） 10:00～

ところ 庄原市役所本庁 5 階第 2 委員会室

### 1 開会

### 2 市長あいさつ

### 3 議題

- ・ 庄原市の児童生徒の現状について
- ・ 意見交換

### 4 その他意見交換

### 5 閉会

## 庄原市総合教育会議構成員名簿

職 名	氏 名
市 長	木山 耕三
教 育 長	牧原 明人
教育委員 (教育長職務代理者)	末信 丈夫
教育委員	横山 和明
教育委員	神本 久美
教育委員	立花 有佐

## 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果

○平均正答率（％） ※平成 30 年 4 月 17 日実施

			庄原市	広島県	全 国
小学校 第 6 学年	国 語	A 問題	<b>78</b>	73	70.7
		B 問題	<b>64</b>	59	54.7
	算 数	A 問題	<b>67</b>	66	63.5
		B 問題	<b>57</b>	54	51.5
	理 科		<b>67</b>	63	60.3
中学校 第 3 学年	国 語	A 問題	<b>78</b>	76	76.1
		B 問題	<b>61</b>	61	61.2
	数 学	A 問題	<b>68</b>	66	66.1
		B 問題	<b>48</b>	46	46.9
	理 科		<b>71</b>	66	66.1

※県及び市の平均正答率については、小数点以下は公表されていない。

## ○結果の概要

小学校では、全ての調査教科において、平均正答率が県平均、全国平均を上回っている。中学校では、国語B問題において、県平均、全国平均と同程度だが、他は全て上回っている。教職員の研究姿勢や授業改善の努力、子どもたちの学ぶ意欲やこつこつと勉強を継続する頑張りが、良い結果に結び付いてきている。

一方、正答率が低かった問題を精査してみると、いずれの教科においても「書く力」を求められる問題に課題がある。例えば、国語では「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く」、数学では「必要な情報を選択した理由を説明する」、理科では「実験結果を分析して考察を行い、その内容を整理して記述する」などがある。

今後も、授業や家庭学習において「書く力」を付ける取り組みを継続して行っていく必要がある。

## 平成 30 年度庄原市児童生徒の体力・運動能力調査結果

○調査結果（◎：H29 全国平均値以上、▼：H29 全国平均値未満）

			握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	平成 29 年度の全国平均値以上		
											項目数	割合	
小学校	男	1年	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8	40 / 48 項目	83.3%
		2年	▼	◎	◎	◎	◎	▼	◎	◎	6		
		3年	◎	◎	◎	◎	◎	▼	◎	◎	7		
		4年	▼	◎	◎	◎	◎	▼	◎	◎	6		
		5年	◎	◎	◎	◎	◎	▼	◎	◎	7		
		6年	▼	◎	◎	◎	◎	▼	◎	◎	6		
	女	1年	▼	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	7	41 / 48 項目	85.4%
		2年	▼	◎	◎	◎	◎	▼	◎	◎	6		
		3年	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8		
		4年	▼	◎	▼	◎	◎	▼	◎	◎	5		
		5年	◎	◎	▼	◎	◎	◎	◎	◎	7		
		6年	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8		
中学校	男	1年	▼	▼	◎	◎	▼	▼	◎	▼	3	10 / 24 項目	41.7%
		2年	▼	◎	◎	▼	▼	▼	▼	▼	2		
		3年	▼	◎	◎	◎	▼	◎	◎	▼	5		
	女	1年	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▼	◎	7	19 / 24 項目	79.2%
		2年	◎	◎	◎	◎	▼	▼	▼	◎	5		
		3年	◎	◎	◎	◎	▼	◎	◎	◎	7		
各項目での全国平均値以上の割合			50%	94%	89%	94%	72%	44%	83%	83%			

※20mシャトルラン（往復持久走）…20m 間隔に引かれた線の間を、CD 等の合図音に合わせて往復する体力測定方法。

## ○結果の概要

小学校男子、中学校女子において、平成 29 年度の全国平均値以上であった項目の割合は、それぞれ 83.3%、79.2%で、いずれも過去 5 年間で最も高かった。小学校女子においては 85.4%で、3 年間継続して 80%以上である。一方、中学校男子においては 41.7%と過去 5 年間で最も低く、全学年の握力、20mシャトルラン、ハンドボール投げが 2 年連続で全国平均値を下回っている。特に、中学校男子 1・2 年の結果を経年で比較すると、全国平均値以上の項目の割合が大幅に減少している。

全体的には、握力と 50m走に課題がある。

## 平成 29 年度庄原市内小・中学校の暴力・いじめ・不登校の状況

### ○状況

		庄原市	広島県	1000 人当たりの発生件数		
				庄原市	広島県	全国
小学校	暴力 (件)	6	593	3.7	3.9	4.4
	いじめ (件)	24	2,963	15.0	19.5	49.1
	不登校 (人)	7	893	4.4	5.9	5.4
中学校	暴力 (件)	2	669	2.4	8.7	8.5
	いじめ (件)	13	1,202	15.8	15.6	24.0
	不登校 (人)	33	2,149	40.1	27.8	32.5

### ○概要

#### 【暴力行為の発生件数】

前年度と比較すると、小学校では6件減少し、中学校では1件減少した。

小学校の内訳は、対教師暴力が1件、生徒間暴力が4件、器物損壊が1件、中学校の内訳は、対教師暴力が1件、生徒間暴力が1件であった。

※ 暴力行為への対応については、学校の指導方針を明確にして保護者連携を早急に行うとともに、児童生徒の実態に応じて適切な指導・支援がなされるよう、警察や北部こども家庭センターや医療機関と連携する。また、生徒指導規程及び問題行動マニュアルに基づく毅然とした指導体制を確立する。

#### 【いじめの認知件数】

前年度と比較すると、小学校では6件減少し、中学校では6件増加した。

いじめの態様は、小学校では、軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする(13件)や冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる(12件)が多かった。中学校では、隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする(6件)や冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる(5件)が多かった。

※ いじめの問題については、いじめか否かの判断が個人で行われることがないように、報告・連絡・相談体制を整備し、組織的に早期発見・早期対応・早期解決につなげるなど、各学校のいじめ防止基本方針に基づいて適切に対応する。また、いじめを認知した場合、少なくとも3か月経過するまで、被害・加害児童生徒の様子を含め状況を注視する。

#### 【不登校児童生徒数】

前年度と比較すると、小学校では1人増加し、中学校では5人増加した。

不登校の要因として、小学校では、家庭に係る状況(4人)、無気力の傾向(3人)、不安の傾向(2人)が挙げられる。中学校では、無気力の傾向(13人)、学業の不振(10人)、学校における人間関係(9人)、家庭に係る状況(8人)が挙げられる。

※ 不登校の問題は初期対応・早期対応が特に重要であることから、不登校を支援するコーディネーター役を明確にし、児童生徒の変化を早期に把握できる体制の工夫、複数でチームによる支援を行う。また、未然防止のための魅力ある学校、学級づくりを推進し、授業の中で個に応じた指導、学ぶ意欲を育む生徒指導の三機能を生かした指導の充実、児童生徒の学級や学校等集団への帰属意識を高める特別活動の充実を図る。

## 平成30年度庄原市児童生徒の読書・スマートフォンに関する調査結果

■読書について（平成30年度「基礎・基本」定着状況調査児童生徒質問紙調査[6月実施]の結果より）

### ○1週間、家庭で読書をする時間（％）

		読まない	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
小学校 5年生	庄原市	10.9	38.4	23.9	13.4	3.5	9.9
	広島県	20.3	37.0	22.4	9.3	4.4	6.6
中学校 2年生	庄原市	31.1	37.0	16.8	7.1	2.5	5.5
	広島県	39.2	32.0	15.0	6.7	2.8	4.4

### ○結果の概要

読書をしていると回答した児童生徒の割合は、ほぼ全ての項目で県平均値を上回っている。特に、2時間以上読書をしている児童生徒の割合は、小学校で6.5ポイント、中学校で1.2ポイント県平均を上回っている。

■スマートフォン・携帯電話等について（平成30年7月調査の結果より）

### ○調査結果

		小学校3・4年生		小学校5・6年生		中学生	
所持率		60.4%		77.6%		80.2%	
使用状況 上位5項目 (複数回答あり)	1位	ゲーム	63.3%	ゲーム	76.7%	ゲーム	68.9%
	2位	動画を見る	49.1%	動画を見る	60.5%	音楽を聞く	66.2%
	3位	音楽を聞く	31.5%	音楽を聞く	44.2%	動画を見る	65.3%
	4位	ひまつぶし	28.0%	ひまつぶし	32.5%	ライン・メール	56.8%
	5位	勉強	21.6%	情報収集	30.4%	情報収集	49.1%
使用時間	21時まで	84.3%		74.2%		35.9%	
	22時まで	9.4%		19.4%		32.0%	
	23時まで	2.9%		3.8%		19.0%	
	23時以降	3.4%		2.6%		13.1%	
ルール・約束あり		77.8%		79.7%		60.3%	

### ○結果の概要

スマートフォンや携帯電話等を小学校3・4年生から60%以上の子どもが所持しており、中学生では80%を超えている。使用状況は、多くの子どもたちが「ゲーム、音楽を聞く、動画を見る」となっている。使用時間は、これまで21時までを共通の目標にしていたが、実態は、学年が上がるほど遅くまで使っており、特に、中学生の60%以上が21時以降も使用し、その内23時以降の使用が10%を超えている。また、家庭生活の中でスマートフォンを手放せない子どももいるようである。学力や健康への影響、悪口や傷つくことが書き込まれるなど、長時間使用や使い方による問題が出ていることもある。学校でも「なぜ使うのか」「適切な使い方」「問題となっている案件」などについて指導を行っているが、スマートフォン等を子どもに与えている家庭では「使い方のルールを決め、決めた以上は必ず守る」といった話し合いをするなど、家庭への啓発を継続して行う必要がある。